

初冬の鴨川・小湊をめぐるバスツアーを終えて
―誕生寺・鯛の浦・鴨川市郷土資料館・大山千枚田・大山不動尊―
12月1日(土)、参加者 30 人

12月1日に行われた千葉ウイスコンシン協会主催のバスツアーは、会員9人、一般参加者21名のうち外国人が5名(全員がウイスコンシン州出身のALT)という国際色豊かな構成で、バスの中では日本語と英語が飛び交うとても楽しい旅行となりました。

稲毛海岸駅を出発したバスは、最初の目的地・誕生寺に11時過ぎに到着。境内の入り口では、鴨川市市民交流課の岩瀬英彦課長補佐と市民交流推進係の山口紀子さんが「Welcome to Kamogawa」のポスターを掲げ出迎えてくれました。誕生寺は日蓮上人の誕生を記念して1276年に建立された由緒あるお寺。山門の入り口から本堂に通じる途中には、檀家から寄進された白い石の灯籠がいくつも並んでおり、地元の人たちの篤い信仰心を伺うことができました。



誕生寺で最初の集合写真をパチリ



大きい灯籠がずらりと並ぶ境内

鯛の浦の遊覧船は、誕生寺のすぐ前の海岸から乗船でき、海からの眺めがよい観光コースでしたが、この冬一番の冷え込みに参加者は船室に閉じこもったまま遊覧。それでも、鯛の浦一番の呼び物、船長さんが投げる撒き餌を目指して水面に湧き上がる鯛を眺める時は、船室の窓を開けて、身を乗り出して見物していました。1メートル以上もある大ものの鯛に、乗船の皆さんもびっくりでしたが、「地元の人は鯛と言うけど、本当にあれは鯛かしら?」と思った人もいたようです。



下船後に浜辺を背にして記念撮影



潮風をうけ、気持ちも爽快です

鴨川市内の「藤よし」で鰯のお刺身がメインメニューの昼食を堪能した一行は、市庁舎近くの「鴨川市郷土資料館」で、この地方の農業・漁業の道具や生活用品を見学。再びバスに乗り、海岸から直角に山の方に向かうと、山腹に段々畑状に広がる棚田の「大山の千枚田」が見えてきました。千葉国体の際には、天皇・皇后様も訪問され、記念碑も建てられている大山千枚田は、山腹からの眺めも素晴らしく、棚田を守ってきた先人たちの汗と努力に頭の下がる思いでした。

高台にある「大山不動尊」へは、途中の道が狭いということで、街道にバスを待たせて徒歩で向かいました。登り勾配の道のりが 500～600 メートルも続き、山門の入り口に到着した際には、全員がグロッキー気味。それでも、皆さん、マヤのピラミッドのような急こう配の階段を登りきり、不動尊の社殿で参拝できました。境内には鐘つき堂があり、大きな銀杏の木が見事に黄葉し、晩秋の風情満点。たどりつくまではしんどかったが、登ってみれば、「やはりここまで来て良かった！」。



初冬の気配を漂わせる大山千枚田



千枚田をバックにすると絵になりますね！



鴨川市郷土資料館に甲冑の武者現る



見事な銀杏をバックに撮影
(大山不動尊にて)

冬の日暮れは早く、復路の行程は真っ暗でした。会員交流部会の小川鉄次さんが千葉県に関するクイズ 10 問を英語と日本語で始めましたが、その 10 問が終わらない内に千葉市内に到着。正解者にプレゼントする予定のお土産(食品)を全員に配るというおまけもあり、参加者の皆さんは、今回のバスツアーを存分に楽しんでくれたようです。(阿部照夫)